

んでは世の中のためになる仕事をはじめるやうにしなければなりません。学問を習つて、そして世の中のお役に立つ人間になるやうにと、お訓へになられたのであります。

皆さんは七つとなり八つとなつて、一人のこらず学校に入學しました。皆さんのがじめて学校に上る時には、お父さんかお母さんにつれられて学校の門を入つたでせう。その時お父さんやお母さんはどんなによろこんだことでせう。皆さんのがしつかり勉強して、立派な人間になつてくれるやうにと考へない親は、一人もありません。

ですからお父さんやお母さんは、皆さんに勉強するやうにくくとおつしやるのであります。

日本の國ではどんな田舎へ行つても、学校のないところはあります。どんな山奥へ行つても、村で一番大きな建物は学校であります。皆さんもよく知つてゐるやうに、学校はよい人となるために勉強するところであります。皆さんのお父さんやお母さんは毎日仕事に精出されてゐます。皆さんはお父さんやお母さんのお手傳をすることも大切であります。皆さんのお仕事は第一に勉強することであ

ります。ですから皆さんは學校へ行つたら、校長先生や先生のおつしやることをしつかりきて、まじめな生徒にならなければなりません。お家へ歸つてからのおさらひも、忘れてはいけません。皆さんにはからだを丈夫にするために、元氣よく遊ぶことも大切であります。が、勉強を少しもしないで遊ぶやうなのは、大そういけないことがあります。勉強は皆さんのが立派な人間となるために大切なばかりでなく、前にお話した親に孝行をつくすためにも、世の中のお役に立つ人間となるためにも是非必要なことあります。皆さんがしつ

かり勉強するには、辛抱して勉強することが大切であります。はじめはがまんして勉強してゐても、毎日きちんと勉強してゐると勉強がほんとにたのしい面白いものになつて來ます。

此の世を生きて行くには、人間は誰でも働くなければなりません。皆さんも大きくなつたならば、色々な仕事を見つけて、働くかなければなりません。ですから大きくなつてから、仕事をして行く力を養つておかねばなりません。そうして自分一人のためばかりでなく大きい人のために働くことを考へるのであります。この大ぜいの人

のために働くと言ふことを、よく心にとめておいていたときたいと思ひます。

そして皆さんは學校で覚えた學問をはたらかして、相模の佐太郎みたやうに村の土橋をかけるとか、栗田定之丞のやうに海べに松の木を植ゑるとか、古橋源太郎のやうに馬や蠶を良くすることに骨を折るとか、ジエンナーのやうに疮瘡の發明をするとか、高田屋嘉兵衛のやうに遠い所へいつて商賣の道を開くとか、井上でんのやうに久留米がすりを拵へるとか、人の爲になつたり世間の利益になるこ

とに骨を折らねばなりません。國を強くするには作物のこと気にをつけて、田や畠からのとれ高を増すとか、商賣を盛にして品物を外國に賣出すとかして金をふやすことにしなければなりません。

公益を廣めるには公徳を守らなければなりません。公徳といふのは世間の人の迷惑にならぬやうに心がけ、尙その上に良いことをしなければならぬといふのです。日本人はこの公徳の心が少しあとつてゐるやうであります。道に紙屑を落したり、たんづばを平氣で道に吐いたり、大せいの人の目につくところに落書したり、公園の木

を折りとつたり、先を争つて電車や汽車に乘つたり、こんなのが少くないやうであります。これは日本人としてまことに恥しいことであります。

いつも、自分も大ぜいの中の一人であると言ふ考へを持つてゐて大ぜいの人の迷惑になるやうなことは、決して／＼してはいけません。少しでも人様のお役に立ちたい、少しでも世の中を住みよい美しいものにしたいと思ふ心を、しつかり養つてゆかなければなりません。皆さんのが大きくなつた時は見違へるやうな美しい世の中にし

ていたときたいと思ひます。

六

常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シヅテ天
壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ
常ニ（いつも）國憲ヲ重シ（國のおほものきそくを大切にし）
國法ニ遵ヒ（いろ／＼のきそくどほり行ひ）一旦（ひとつび）緩急
アレハ（國がたつか立たぬかと云ふやうな時があつたら）義勇

公ニ奉シ（正しい勇氣を出して天子様や國の爲に盡して）以テ
(そして) 天壤無窮ノ（天や地のやうに何時までもはてしの
ない）皇運ヲ扶翼スヘシ（天子様の御威勢が益々御さかんにな
るやうにたすけねばならぬ）

私たちには日本の國の大もの規則である皇室典範と大日本帝國憲
法と大事にいたし、その他、我々が是非とも守らなければならな
い規則にはよく従はなければなりません。皇室典範と大日本帝國憲
法とのお話は小學校の六年の時に聞くことですが、皇室典範は天皇

陛下の即位のことを探じめ皇室の大重要な事柄をきめてある規則で、
憲法は日本の國がらの大本を定め、天皇陛下が我が國をお治めにな
る一番大切な規則であつて、家にたとへると大黒柱であります。此
の二つが我が大日本帝國として一ぱん大切な約束であります。
又もし戦争がおこるとか、その他、國に大事件のおこつた時には
命を投げすてゝ天皇陛下の御ため、國のためにつくし、そして天や
地がいつまでもかはらないやうに、天子様の御威勢がいつまでもい
つまでもかはる事なくます／＼御さんになるやうに、まごころか

ら御奉公申上げなければなりません。これが私たち國民の一番大切
な、一番大きなつとめであると申されたのであります。

私たちには日本のおほ本の規則である皇室典範と大日本帝國憲法と
をよく守らなければなりません。皆さんが學校に行くと、學校には
學校のきまりがありませう。朝學校へ行つたなら、お天氣の日であ
れば、直ぐにお道具を机に入れて運動場に出なさいとか、朝鐘がな
るとどこに並びなさいとか、何時に勉強がはじまるとか、色々のき
まりがあります。人が大せい集つてくらして行くには、誰も守ら

なければならぬ規則が大切になつてくるのであります。學校には
學校のきそくがあるやうに、國には國の規則があります。皇室典範
と大日本帝國憲法とは國の色々の規則のおほ本であつて、明治天皇
様が明治二十二年二月十一日、紀元節の日に廣く世の中におしらせ
になられたものであります。その他の色々の規則も、國のため世の
ため私たちのためにありますから、國のおきてはしつかり
守らなければなりません。學校のおきてが守れない生徒はよい生徒
でないやうに、國のおきてや規則が守れなくては、よい日本人とな

ることが出来ません。

そして日本の國に何か事變がおこつたならば、私たちは命をなげ
すてゝ、天皇陛下の御ため、國のためにつくさなければなりません。
日本の皇室は天照大神からずっとお血統がつゞいてゐます。こんな
にありがたい國はどこにもありません。そして日本の國は、何千年
といふ昔から、一度も外國と戦つて負けたことがありません。何故
日本の國はこんなに強いのであります。日本は自分の國よりずっと
大きい支那と戦つて勝ち、ロシヤと戦つても勝ちました。皆さん

は昭和六年の秋におこつた滿洲事變をよく覚えてゐませう。勇敢な
日本軍の向ふところ、敵の兵隊はみんな逃げてしまひました。
それと申すのも、みんな天皇陛下の御稟威であります。日本人
には、ずっと昔から天皇陛下の御ため國の爲には、命を投げすてゝ
戦ふと言ふ忠義なゝ血が流れてゐるのであります。あの上海の爆
彈三勇士のお話を、皆さんはよく知つてゐませう。爆弾を抱いて敵
の鐵條網の中に躍り込み、わが身をこつぱみぢんにしてその鐵條網
を破り、我が軍の進む道をひらいたのであります。こんな勇ましい

お話をきくと皆さんがあきくなつた時、もし日本が外國と戦争でもすることになると、まつ先に勇ましいはたらきをしやうと考へないものはないでせう。それであつてこそ、私たちには日本の國民なのであります。かういふやうに、天皇陛下の御ため國のために命を捧げたえらい人の御靈は、東京の九段坂にある靖國神社にまつられてあります。ですが、こゝには畏くも毎年兩陛下が御参拜あらせられます。

日本の國がこんなに立派な強い國になつたのも、まだ一度も外國に負けたことがないのも、これまでに數へきれないほどたくさんの

人が、天皇陛下の御ため國のために命をなげすて、つくしたからであります。しかし日本は正しいことを守る國、外國とのつき合ひにもなるべくむつまじくすることを心掛けてゐる國でありますから、止むにやまれず、正しいことのために戦つたことはあります。どちらから戦争をしかけていつたやうなことは一度もありません。これから後も同じやうに、萬一日本が正しいことのために、戦をしなければならないやうなことがあつたなら、日本の國民は一人のこらず、心を一つにしてあくまで戦はなければなりません。そして天地

とともに變りない皇室と日本の國のためには、男も女も、最後の一
人となるまではたらいて此の國をまもらなければなりません。此の
明治天皇様のお訓こそ實に日本國民の一番大切な、ゆめにも忘れて
はならないつとめであります。

七

是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ
遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

是ノ如キハ（まへにいつたやうなことをよく守り行ふことは）
獨リ（たゞ）朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス（天皇に忠義なよ
い臣民であるばかりでなく）又以テ爾祖先ノ遺風ヲ（尙その上
に、お前たちの先祖がのこしたよいならはしを）顯彰スルニ足
ラン（十分あらはすことが出来るであらう）

「是ノ如キ」とは、前の「爾臣民父母ニ孝ニ」から「天壤無窮ノ
皇運ヲ扶翼スヘシ」までのことを申されたのであります。つまり今
まで言つたことをよく守りよく行ふものは、實に天子様に忠義なよ

い臣民であり、又かういふことは、私たちの先祖が、日本の國がはじまつてこの方、行つて來たところのものでありますから、これを守るのは先祖をうやまふことであり、先祖ののこしたよいならはしを、大いにあらはすものであるとお訓へになられたのであります。

こゝで私たちが注意しなければならないのは、忠義も孝行も日本の國では、その本は同じであることを、おさとしになつてゐられることがあります。「爾臣民父母ニ孝ニ」から色々とわけて、勅語のあります。ありがたいことについて申上げて來ましたが、この勅語の御趣旨を

よく守つて、そして之を行ふものがほんとうに忠義な臣民であり、ほんとうによい日本人であるのであります。私たちの先祖はみんなかういふことを守り、行つて來たのであります。これを守り行ふことは先祖ののこしたよいならはしをあらはすもので、忠義も孝行も日本の國では、その本は同じであることをお訓へになられたのであります。

これをつゞめて申しますと、忠と孝さへしつかり守つてあれば立派な日本人となれるのであります。私たちは楠木正成や、正行や、

乃木大將や、廣瀬中佐や、またさきにお話した爆弾二勇士などの忠義な孝行なお話を聞くと、目に涙がうかんで來ます。何故忠義、孝行の話がこんなに私たちを泣かせるのであります。つまり忠義、孝行は日本人のたましひであるからであります。

前に話した通り、私たちの大日本帝國は三千年この方、萬世一系の天皇様がお治めになつてゐられます。今日のやうに私たちがこんなに幸福にくらすことが出来るのも、天子様が一心不亂に日本の國をよくして下さつたからであります。これが世界にない日本のよ

いところであります。日本九千萬の國民は、みなこの忠孝のたましによつて、かたくく、むすばれてゐます。何とありがたい國ではあります。

八

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守ス
ヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳拳服膺シテ咸其徳ヲ一一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

斯ノ道ハ（今まで言つたやうな國民の守り行はなければならぬこと）がらは）實ニ（ほんとうに）我カ皇祖皇宗ノ（天子様の御先祖の）遺訓ニシテ（のこしおかれたお訓であつて）子孫臣民ノ（天子様の御子孫や、又私たち臣民とその子孫の）俱ニ（ともどもに）遵守スヘキ所（よくしたがひ守らなければならぬことであつて）之ヲ古今ニ通シテ謬ラス（これは昔に行つて

も今行つても少しもまちがひがなく）中外ニ施シテ悖ラス（日本でも外國でも、どこで行つてもまことに立派な道にはづれないとだから）朕爾臣民ト俱ニ（朕はお前たち臣民とともにどもに）拳拳服膺シテ（いのも忘れないやうに深く心掛けて守り）咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ（天子様の御先祖の良いお訓をよく守つて、前に言つたやうに皆の者が立派な國民になりたいものである）御名（明治天皇様の御名）御璽（明治天皇様の御印）

「斯ノ道ハ」とおほせられたのは、「爾臣民父母ニ孝ニ」から「天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」までにいろいろとお訓へになられたのをさして言はれたものであります。つまりこの道は天子様の御先祖がおのこしになつたお訓であつて、天子様の御子孫も我々臣民も其の子孫も、皆守らなければならぬものであります。この道は又昔も今もかはりがなく、日本の國で行つても、外國で行つてもよい道であるとおほせられたのであります。

それから「朕爾臣民ト俱ニ拳拳服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ

庶幾フ」とおほせられてあります。これは前に言つたやうに、我國民の守り行はねばならない道は、昔も今も日本でも外國でも何時何處で行つてもかはりのないものだから、朕はお前たち臣民の手本となつてよく守り、さうしてみんながいつしよになつて、さういふ良いことを行ひたいものであるといふ御趣意であります。天子様が自分もお前たちといつしよに良いことをしやうとおほせられたことは、まことにおそれおほいことであるが、そこが我々臣民を御自分の御子様のやうにいつくしみたまふ大御心から出たもので、まこ

とにありがたいきはみであります。

日本の國は三千年から立派な歴史を有つてゐる國であります。そして世界で日本ほどやいてゐる國はありません。日本の國旗日の丸の旗は、世界のすみぐまで光をなげてゐます。『中外ニ施シテ悖ラス』のこの勅語の御精神をしつかりともつて、私たち日本國民は日本のために世界のために、働くなければならないのであります。それには先づ私たちは、朝も晩も、まごゝろをもつて勅語の御趣旨を守り、日本の國民は一人のこらず此の勅語の御精神に

添ふやうに心掛けなければなりません。私たちは大人も子供も男も女も、みんな力をあはせて天地と共にかはりない日本を、いやが上にも立派な強い明るい國にしなければなりません。
想ひ起せば明治天皇様がこの御勅語をお下しになつてから、もう四十四年の月日が流れてをります。今の日本はその時分とはくらべものにならない程すばらしく立派な大きな國になりました。臺灣や樺太や朝鮮を始め、遠い南洋の人々までも私たちと同じ天皇陛下の臣民となり、この頃では新らしく滿洲といふお友達の國も出來まし

た。これは皆さんのおぢいさんやお父さんをはじめ、みんながよくこの御勅語の御趣旨を守つたからであります。この日本の國を尙一層強く立派にすることは、あなたがたのどうしてもなしとげなければならぬ大きなつとめです。その準備は今からとゝのへておかなくてはなりません。今の日本の大人们ちはあなたがたが一人前になられたときはたらきに、大きなのぞみをもつてゐられるのです。それならあなたがたはどうしたらよいでせうか。お答へは簡単です。今迄申しした御勅語の御訓をよく守り行ふことです。

よく日本九千萬の國民と一口に言ひますがこれもあなたがたの一人人が集つて出来たものです。それであなたがたが一人立派な人になることは、それだけ日本の國がよくなることです。御覽なさい、雨つゆの一滴が集り集つてあの廣いく太平洋も出来て居るではありますか。かう考へると片時も油斷が出来ないでせう。

あなたがたは學校を卒業してから色々の道に進まれるでせうが、いつもその大本の目あては、教育勅語の御趣旨を守り行つてほとんうちに良い日本人となることでなければなりません。年中白雪をいた

君が代



君
が
代
は
ち
よ
に
や
ち
よ
に
さ
れ
い
し
の
こ
け
の
む
す
ま
で
巖
いは
こ
な
り
て

さ
いて雲の上にそびえる富士の山、あの清らかなけだかい容姿を見
つめて、うますたゆまず登る氣持で進もうではありませんか。

(をはり)

The image shows a musical score for piano, consisting of five staves of music. The score is in common time, with a key signature of one sharp (F#). Measure numbers 1-34, 1-100, and 1-106 are indicated at the top of each staff respectively. The music features various dynamics such as *p* (piano), *mp* (mezzo-piano), and *ff* (fortissimo). The piano part includes both treble and bass clefs, with some staves using a single clef (either G or F) throughout. The notation is typical of early 20th-century Western-style musical scores.

一月一日



仰あ君き四よ初は
ぎが方ち日ひ
見みみにの
るかかひ 第
こげやか 二
そにくり 章

い 松ち終を年さし
は 竹たりの
ふ なは
第 今けたきじ 第
日ふて世よめ 一
そゝのの 章

た比た今けさ
ふへ朝し
さつので
れゝ空ゝ

た門がめ例なめ
のごで
しださ
れにをて

勅語奉答



あ 露つ れみ あ
な も 語 な
尊 そ の 趣ひ 尊
し む 旨ね し
大 朝 か 心 おは
お あ じ ころ を な
な タ ゆ 刻 み
勅 に て 語

天長節

A musical score page showing two staves of music. The top staff is for the orchestra, featuring multiple parts with various clefs (G, C, F) and dynamic markings like forte and piano. The bottom staff is for the piano, with a single melodic line. Measures 1 through 10 are shown, with measure numbers at the beginning of each line.

今日の吉き日は
うまれたまひし
けふ
今日の吉き日は
さし出たまひし
ひかり遍れき
めぐみ遍れき
いはへもろ人
いはへ諸人

も 君きみ も 君きみ 吉よ 御み 吉よ 大おお
ろ が ろ が きひ きひ 君きみ
さ さ 代よ 代よ 日ひ ひかり 日ひ な
も 代よ も 代よ なり の なり の
に を に を

紀元節

A musical score page for 'Kokoro' by Toshiro Mayuzumi. It features two staves: a soprano staff with lyrics in Japanese and Romanized English, and an accompaniment staff for piano or organ. The piano part includes a bass line and harmonic chords. The score is set against a background of traditional Japanese ink wash art.

第一章 第二章 第三章 第四章

高根おろしに草木も
あふけふたの
仰ぐ今日こそ樂しけれ
いけ池のおもより猶ひろき
あふけふ
仰ぐ今日こそたのしけれ
千代萬代に動きなき
あふけふたの
仰ぐけふこそ樂しけれ
よろづくに
あふ萬の國にたぐひなき
仰ぐけふこそたのしけれ

明治節

The image shows two staves of musical notation for a vocal piece titled "Yamato". The top staff uses soprano C-clef and the bottom staff uses alto F-clef. Both staves are in common time (indicated by 'M.M. J = 96'). The lyrics are written in Japanese, with some characters underlined, likely indicating pitch or performance style. The music consists of eighth and sixteenth note patterns, primarily in the treble clef staff.

ア細亞の東日出づる處
聖の君の現れまして
古き天地させし霧を
大御光に隈なくはらひ
教あまねく道明らけく
治めたまへる御代尊
惠の波は八洲に餘り
御稜威の風は海原越えて
神の依せしる御業を弘め

民の榮行く力を展ばし
外つ國國の史にも著く
留めたまへる御名畏
秋の空すみ菊の香高き
今日のよき日を皆こそほぎて
定めましける御憲を崇め
諭しましける詔敕を守り
代木の森の代代長へに
仰ぎまつらん大帝

The image shows a musical score for three voices (Soprano, Alto, and Bass) with piano accompaniment. The score consists of three staves. The top staff is for Soprano, the middle for Alto, and the bottom for Bass. The piano part is on the left, indicated by a treble clef and bass clef. The lyrics are written in Japanese below the notes. The music includes various dynamics like forte (f), piano (p), and sforzando (sf). The vocal parts mostly sing eighth-note patterns, while the piano part features eighth-note chords.

昭和九年三月十日印 刷

昭和九年三月廿日發 行

東京市赤坂區青山南町三丁目三十三番地

兼印刷人 澤 本 孟 虎

東京市京橋區京橋二丁目二番地

印刷所 大久印刷合資會社

不許複製

發行所
社團 帝國公民教育協會

法人 東京市赤坂區青山南町三丁目三十三番地
電話 青山二二〇八番

終

